

令和7年度 今泉小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◇基本目標 豊かな人間性をもち、主体的に判断・行動し、自らの向上と社会の発展を目指してたくましく生きる児童を育成する。
- ◇具体目標 1 明るく思いやりのある子（思いやり）
2 自ら考え進んで学ぶ子（創造力）
3 元気で、やりぬく子（体力・気力）
- 合言葉「今泉の子 やさしく かしこく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」の創造

家庭や地域の信頼と協力のもと、児童一人一人が夢や希望を抱き、喜びとやりがいをもって生き生きと生活し、個々の力を伸長できる、地域とともに歩む学校を創造する。

3 学校経営の方針※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）認め励ます教育を推進することを通して、児童一人一人の「知・徳・体の調和のとれた生きる力」の育成に努める。
- （2）体験的な活動や協働的な活動を通して、「これからの社会を生きる力」の育成に努める。
- （3）児童一人一人の個性・特性・教育的ニーズの理解に努めるとともに、その特性に等に応じた指導・支援について、全職員による組織的な対応に努める。
- （4）校内研修を工夫するなどして、教職員の資質・向上を図るとともに、業務の効率化を図るなどして、働き方改革を推進する。
- （5）魅力ある学校づくり地域協議会との連携や小中一貫教育・地域学校園の取組の推進に努めながら、家庭や地域とのつながりを深めた教育活動を展開する。

[泉が丘地域学校園教育ビジョン]

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成
～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法令や学習指導要領、とちぎ教育ビジョン2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画、学校教育スタンダード、令和7年度指導の重点、泉が丘地域学校園教育ビジョンを踏まえ、教科横断的な視点を意識しながら編成する。
- (2) 児童がもつ個々の力を伸ばすことを目指し、教育目標、本年度の学校経営方針、重点目標の具現化を図ることができるよう編成する。
- (3) 本校の歴史と伝統を大切にし、児童の実態や本校の特色、地域の教育力を生かした特色ある教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○地域の教育資源を活用した教育活動の充実
・業務の効率化と勤務時間の適正化
- (2) 学習指導
○「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善（授業スタイル「今泉モデル」の実践）
・1人1台端末の活用の推進
- (3) 児童生徒指導
・「今泉小学校のあたりまえ五か条」に基づく生活指導
・児童一人一人の個性や状況等に応じた指導・支援の充実

(4) 健康 (体力・保健・食育・安全)

- ・走・跳・投の基本的能力の向上
- ・望ましい食習慣と基本的な健康習慣の定着

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学習の問題をつくり, 調べ, 考え, 話し合う, という問題解決的な学習を積極的に取り入れ, 「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。</p> <p>② 自分の考えを発表できるような場を設けるとともに, 自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。</p> <p>③ <u>地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」</u>を活用して, <u>児童・保護者に家庭学習について啓発を図り学習意欲の向上を図る。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 611 1508 734"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>89.2</td> <td>100.0</td> <td>90.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>91.4</td> <td>97.4</td> <td>90.8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は数値指標を下回ったが, 教職員, 保護者の肯定的回答は数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①児童と共に学習問題をつくり, 調べ, 考え, 話し合う, という問題解決的な学習を積極的に取り入れ, 「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。</p> <p>②自分の考えを発表できるように, 考えを整理する時間や練習する時間を設け, 自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。</p> <p>③地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して, 児童・保護者に家庭学習について定期的に啓発を図り学習意欲の向上を図る。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	89.2	100.0	90.6		R6	91.4	97.4	90.8	
	児童	教職員	保護者	地域															
R7	89.2	100.0	90.6																
R6	91.4	97.4	90.8																
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 朝の会や帰りの会で, 児童の善い行いを互いに認め, 称賛し合う場を設定する。</p> <p>② 道徳科において, 物語の内容から自分自身を見つめ, 登場人物に共感して自分のこととして考えることができるような授業を行う。</p> <p>③ 児童会活動や縦割り班活動などの異学年活動を通して, 互いを思いやる心を育む。</p> <p>④ 明確なねらいをもち, 幼・保・中・高・地域の人との交流活動に進んで取り組む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1261 1508 1395"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>89.8</td> <td>97.7</td> <td>95.3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>92.1</td> <td>97.4</td> <td>95.0</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度に比べ, 児童の肯定的回答は減ったものの, 全体の数値目標は達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①③④は継続的に指導・支援していく。</p> <p>・③体育館改築に伴い, 体育館や校庭の使用が制限されており, 十分な異学年活動を行うことは難しい。その中で学校の施設をできるだけ活かしたり, 日程の調節を行ったりしながら, 可能な限り異学年との活動の機会を設定したので, 今後も実施していく。</p> <p>・②教師, 保護者の数値はやや上がったものの, 児童が下がったことを受け, 道徳科において自我関与を十分にさせるとともに, 年1回の授業公開に合わせ, 保護者からのコメントを集めたものを学年だよりに掲載するなどして, 教師や保護者からの励ましを児童にフィードバックする機会を設ける。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	89.8	97.7	95.3	100	R6	92.1	97.4	95.0	100
	児童	教職員	保護者	地域															
R7	89.8	97.7	95.3	100															
R6	92.1	97.4	95.0	100															

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 根気強く取り組むことの大切さを学んだり、思いや願いを生かした課題を実践したりして、振り返り時に達成感を味わうことができるようにするとともに、児童の取組の様子を各種たよりや学校ホームページによって家庭・地域に発信する。</p> <p>② 児童の自己肯定感を高められるように、児童相互に認め合う場を設け、教職員も認め励ます指導に努める。</p> <p>③ めあてカード、学習カード、ワークシート等の活用により達成感や充実感を味わえるようにする。また、活動の始めと終わりを比べて「できる」ようになったことを明確にして、更に意欲を高めるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 147 1508 271"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>88.5</td> <td>100</td> <td>84.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>90.1</td> <td>97.4</td> <td>86.7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度に比べ、児童、保護者の肯定的回答が減ったものの、全体の数値目標は達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①各活動においてめあてを立て、励ましたり個別支援をしたりして、根気よく取り組ませ、振り返ることで達成感や自己肯定感を高める。児童の頑張りの様子を家庭に発信することなどを通して、粘り強く課題に取り組む児童を育成する。 ・②帰りの会等で、児童の自己肯定感を高めることができるような活動を実施するなど学年の実態に応じて互いを認め合う場を意識的に設ける。 ・③カードの有効活用や振り返りを実施することで、児童自身が「分かった、できた」ことを明確に実感できるようにするとともに、学年の実態に応じてシールや振り返りの累積により、視覚化を図ることで達成感を味わい、意識を高めるようにする。 		児童	教職員	保護者	地域	R7	88.5	100	84.8		R6	90.1	97.4	86.7	
	児童	教職員	保護者	地域														
R7	88.5	100	84.8															
R6	90.1	97.4	86.7															
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 体力テストや各種検定の結果から児童の体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。</p> <p>② ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、児童の健康への関心を高める。</p> <p>③ 日常の給食指導や家庭で「食」について考える機会として「お弁当の日」や年2回の「食育チャレンジシート」を実施し関心を高める。</p> <p>④ 避難訓練・交通安全教室等、安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 958 1508 1081"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>91.8</td> <td>95.3</td> <td>92.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>93.4</td> <td>100</td> <td>94.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的回答が数値目標を達成した。体育館工事で敷地内の通行ルートや校庭利用の仕方などが大幅に変更になる中、児童はその都度更新されるきまりを守りながら行動することができていた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①新体力テストや各種アンケートの結果から、児童の体力や健康への関心、生活習慣等の実態を把握し、保健体育の授業の充実に努める。</p> <p>②ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、児童の健康への関心を高める。</p> <p>③日常の給食指導や家庭で「食」について考える機会として「お弁当の日」や年2回の「食育チャレンジシート」を実施し関心を高める。</p> <p>④避難訓練・交通安全教室等、安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	91.8	95.3	92.1	100	R6	93.4	100	94.6	100
	児童	教職員	保護者	地域														
R7	91.8	95.3	92.1	100														
R6	93.4	100	94.6	100														

1-(4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。
【数値指標】
全体アンケート「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周り人と協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ① 学級経営を核に「宮キャリア教育」や、地域・企業の協力を得た社会体験活動を通し、児童が自らのよさや成長に気づき、周りの人や社会とのつながりを意識できるようにする。
- ② 学級活動・児童会活動の充実を図り、児童の考えを取り上げる場を設定し、自己有用感を高める。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	85.1	97.7		
R6	89.1	94.9		

・教職員、児童の肯定的回答率が数値目標を上回った。
【次年度の方針】
① 宮未来キャリア教育や、地域・企業の協力を得た社会体験活動を通し、児童が自らのよさや成長に気付ける機会を増やす。また、周りの人と社会とのつながりを意識させるようにする。
② 学級活動・児童会活動の充実を図り、児童の考えを取り上げ実現できる場を意識して設定し、自己有用感を高める。

2-(1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。
【数値指標】
全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

- ① 研修の充実により、教員の授業力の向上を図るとともに、ALTを効果的に活用した授業を工夫する。
- ② 生きた英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
・ALTとの交流の場の工夫
・学校行事等へのALTの参加
- ③ 外国語活動に向けた環境整備の推進に努める。
・教材等、備品の管理の工夫
・校内掲示の工夫

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	77.1	90.7		
R6	83.5	92.3		

・児童における今年度の達成状況は、目標としていた数値指標を下回った。
【次年度の方針】
①教職員が気軽に実践につなげられるよう、授業で使える英語のフレーズやALTとの授業の進め方などの研修を行う。
②児童が自信をもって外国語を活用できるようにするために、教職員からの声掛けを工夫したり、ALTと気軽に交流できる場を設けたりする。
③児童の実態に合わせて、教材・教具を作成したり、校内掲示を工夫したりすることで、学習に向けた環境づくりに努める。

A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。
【数値指標】
全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

- ① 生活科や社会科、総合的な学習の時間における「宇都宮学」を通して郷土への愛情と誇りをもてるようにする。
- ② 特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場を設定し、興味関心を高める。
- ③ 宇都宮の伝統文化、行事や催しを知る機会を設け啓発を行う。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	83.0	90.7	85.9	
R6	87.0	94.9	84.0	

・児童・教師・保護者において肯定的回答は数値目標を上回った。
【次年度の方針】
① 地域を学ぶ学習を通して、児童が郷土への誇りと愛情がもてるようにするとともに、保護者に児童の様子を今後も発信していく。
③ 「宇都宮学」等において充実した指導ができるよう教材研究を行う。また宇都宮の伝統文化を学ぶなど、特別活動（学校行事）等における体験的な学習の場を設ける。

2- (2)
情報社会と
科学技術の
進展に対応
した教育の
推進

A8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。
【数値指標】
全体アンケート「児童は、デ
ジタル機器や図書等を学習に
活用している。」
⇒児童・教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 各教科等の学習において、個人用
P C等のI C T機器や図書等を
効果的に活用しながら、児童の主
体的な学習を推進する。
- ② 情報教育主任によるI C T機器
の活用法等の情報発信を適切に
行い、児童の発達段階に応じた指
導を継続的に行う。
- ③ 情報教育主任やI C T支援員、学
校図書館司書と連携し、学習に必
要な教材・教具、図書の充実を図
る。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	84.5	96.7	79.5	
R6	84.4	97.5	81.3	

・教職員の肯定回答率は数値指標を上回
ったが、児童の肯定回答率は数値指標を下
回った。
【次年度の方針】
①各教科で単元の目標に応じたデジタル
機器の活用を工夫したり、図書館資料を学
年の実態に合わせて貸出したりして、児童
の主体的な学習に役立てるようにする。
②次年度もパソコン活用研修を実施する
ことにより、教職員のデジタル活用能力の
向上を図っていく。
③学習に役立つ教材・教具や図書資料の整
理・保管に努め、有効に活用できるように
する。

2- (3)
持続可能な
社会の実現
に向けた担
い手を育む
教育の推進

A9 児童は、「持続可能な社
会」について、関心をも
っている。
【数値指標】
全体アンケート「児童は、『持
続可能な社会』について、関
心をもっている。」
⇒児童・教職員の肯定的回答
80%以上

- ① 読書活動において、環境やエネル
ギー、防災などの書籍を紹介し、
日常生活と地球の課題の関連に
気付く機会をもち、継続して指導
する。
- ② 委員会活動や各教科において省
エネ運動、リサイクル活動に取り
組み、環境問題についての関心を
高めるとともに実践力を高めて
いく。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	88.4	86.0		
R6	90.8	82.1		

・児童、教師ともに、肯定的回答は数値的
指標を達成した。
【次年度の方針】
① 読書活動における具体的な取組を、
次年度も継続して行う。指導の中で、
児童の実践力を高めて行く。
委員会活動・学級活動・各教科での活動
において、具体的な取組の実践化を図る。

3- (1)
インクルー
シブ教育シ
ステムの充
実に向けた
特別支援教
育の推進

A10 教職員は、特別な支援
を必要とする児童の実態
に応じて、適切な支援を
している。
【数値指標】
全体アンケート「教職員は、
特別な支援を必要とする児
童の実態に応じて、適切な支
援をしている。」
⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ① 児童の実態を把握するとともに
保護者と情報交換しながら適切
な支援を行い、互いに個性を認め
合い、居がいのある温かな学級づ
くりを努める。
- ② 情報交換会を定期的に行うとと
もにケース会議を活用し、情報共
有と支援方針の共通理解を図る。
- ③ 特別支援教育コーディネーター
を中心に研修を行うとともに個
別支援計画に基づいた支援機能
の充実を図る。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7		100.0		
R6		97.4		

・教職員の肯定的回答が数値指標を上回
り、前年度に比べて微増した。
【次年度の方針】
①保護者と情報を共有しながら児童の実
態把握に努め、教職員相互が連携し協力し
た支援の取組ができるようにする。
②児童に関する情報を教職員で周知し、連
携を図ることができるよう、学校全体にお
いて情報伝達の場を定期的に設定する。ま
た、ケース会議等を十分活用することで、
情報の共有やよりよい支援方針の検討及
び共通理解等に努める。
③特別支援教育に関する研修を行うとと
もに、学校生活の様々な場面において、個
別の支援計画に基づいた適切な指導・支援
ができるような機能の充実を図る。

3-(2)
いじめ・不登校対策の充実

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】
全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ① ①「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。
- ② 学年だよりやさくら連絡網等を通じて、実際に行っているいじめ対策をより積極的に家庭に発信し、啓発に努める。
- ③ 「友達アンケート」や教育相談週間を充実させることで、実態把握に努める。
各教科・道徳・学級活動・日常生活の指導を通して、いじめを許さない児童の育成に努める。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	96.9	100.0	88.8	100.0
R6	97.9	100.0	85.9	100.0

・児童の肯定的回答の数値指標に届いた。保護者の肯定的回答は前年度に比べ微増した。
【次年度の方針】
① いじめの初期対応の確認や、職員間での定期的な情報共有や、研修に取り組み組織的な対応に努める。
② 学年だよりやさくら連絡網を通じて、関連する取組や保護者への継続的な周知を図る。
教職員の共通認識のもと、教育相談週間や友達アンケートを充実させ実態把握に努める。

B

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
【数値指標】
全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ① 一人一人のよさを認め、励ますような温かい雰囲気学級のづくりに努める。
- ② 児童同士がともにかかわり合い、望ましい人間関係を醸成することができる活動を取り入れる。
- ③ 児童が主体的に活動する場面や、一人一人がよさを発揮して活躍できる場を設定し、活動後の振り返りや、教員の称賛や励ましの声掛けにより、自己肯定感を高められるようにする。
欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	96.1	100.0	96.8	
R6	97.0	97.4	96.2	

・児童の肯定的回答の数値指標に届いた。保護者の肯定的回答は前年度に比べ微増した。
【次年度の方針】
① すべての教職員が児童への接し方や学級経営の意識を高める。
② 係活動や当番活動など、児童同士で関わる活動を充実させたり、学級の和を高める機会・場面を多く設定したりして、児童間の人間関係の醸成に努める。
③ 教職員による様々な児童への日頃の声掛けや、児童の行動に関する価値づけに積極的に取り組むことで、児童の自己肯定感を高める。

B

3-(3)
外国人児童生徒等への適応支援の充実

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。
【数値指標】
全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」
⇒児童・保護者の肯定的回答
90%以上

- ① 休み時間における「共遊」等、児童と向き合う時間を確保し、実態の把握に努め、意図的な声掛けや面談を行うようにする。
- ② 特別支援教育コーディネーターを中心に、情報の共有と支援方針の共通理解を図りながら、保護者や関係機関と連携・協力し、個々の状況に応じた支援を行う。
- ③ 教育活動全体を通して、児童の主体的な活動の場を設定し、児童の思いを生かした活気ある明るい学校づくりを推進する。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	97.2	100.0	93.4	100.0
R6	97.9	100.0	91.6	100.0

・児童、教職員、保護者の全てで数値指標を上回った。
【次年度の方針】
① ロング昼休みなどでの「学級遊びの時間」を活用し、児童の実態把握に努める。
② 学級担任が管理職や関係教職員に迅速に情報共有を行うことで、保護者や関係諸機関と連携・協力し、個々の状況に応じて適切かつ継続した支援を行うよう努める。
③ 学級での係活動や学校行事等を通して、児童が主体的に活動することができる場を設定するとともに、活動内容の精選を図る。

B

3-(4)
多様な教育的ニーズへの対応の強化

<p>4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① <u>校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。</u></p> <p>② <u>ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。</u></p> <p>③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。</p> <p>④ 学年の実態に応じて、教科担任制や少人数による習熟度別学習を実施し、児童一人一人が分かる授業の展開に努める。</p> <p>⑤ <u>今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>97.5</td> <td>100.0</td> <td>90.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>98.5</td> <td>97.4</td> <td>87.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員、保護者とも肯定的回答の数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①校内研修等で、一人一回は公開授業をするなど、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。 ②児童が授業のゴールを常に意識できるように、ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ③課題に応じて、授業の展開や学習形態を工夫し、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。 ④きめ細やかな指導をするために、学年の実態に応じて、教科担任制や少人数による習熟度別学習を実施し、児童一人一人が分かる授業の展開に努める。 ⑤多様な経験を持つ人々から直接学ぶ活動をするために、今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	97.5	100.0	90.6		R6	98.5	97.4	87.1	
	児童	教職員	保護者	地域														
R7	97.5	100.0	90.6															
R6	98.5	97.4	87.1															
<p>4-(2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学年主任や各教科・領域等主任の組織的な連携を図るために、学校内の情報共有と活用に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職による総合的な連絡調整の実施 ・共通理解を図るために学年主任会の実施 ・校務分掌、授業研究における学年の枠を超えた編成 <p>② 専門スタッフとの打合せの機会を持ち、情報共有を行うことで、専門性を生かした連携体制を強化する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td></td> <td>95.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>92.3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は目標指標を上回った。組織的な連携体制が十分に機能し、着実な教育効果を上げている。</p> <p>【次年度の方針】① 教育課程の再編成により創出された放課後の時間を有効に活用し、教職員間の情報共有と校内連携のさらなる深化を図る。</p> <p>② 外部講師や関係諸機関との緊密な情報共有を継続し、専門的な知見を積極的に取り入れることで、多角的な連携体制を強化する。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7		95.3			R6		92.3		
	児童	教職員	保護者	地域														
R7		95.3																
R6		92.3																

4-(3)
学校における働き方改革の推進

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 教職員一人一人が、勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努める。
- ② 学年や校務分掌のチームで業務の精選を行うとともに、学習情報システムやICT機器を有効に活用し、業務の軽減や効率化を図る。
- ③ 「リフレッシュウィーク」を設定し、教職員の意識付けを図るとともに、互いに声を掛け合う望ましい雰囲気づくりに努める。

B

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7		90.7		
R6		87.2		

・教職員の意識調査等における肯定的回答は指標を上回った。勤務時間の自己管理意識の高まりや、既存業務の軽減に向けた取り組みが、組織全体のさらなる効率化につながった。

【次年度の方針】

- ① 勤務時間や業務内容の違いを相互に理解し勤務時間を意識した協働き方に努める。
- ② 分掌や学年チームにおける業務の精選を行い、ICT活用による校務のデジタル化も一定の成果があった。今後は、得られた時間を児童生徒への指導や教材研究に充当できるよう、システム運用のさらなる定着を図る。
「リフレッシュウィーク」の運用方法や実施形態を検討し、教職員の心身の健康保持に向けた実効性の高い取り組みを推進する。

5-(1)
全市的な学校運営・教育活動の充実

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。
【数値指標】
全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」⇒児童の肯定的回答
85%以上

- ① 地域学校園共同開催行事を計画的・継続的に実施し、中学生との交流を深める。
- ② 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問、乗り入れ授業の機会を通して、児童生徒の交流と相互理解を推進する。
- ③ 「地域学校園・小中一貫教育」の取組を各種たより等で、家庭・地域に発信していく。

B

達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	88.6	90.7	81.7	100
R6	90.7	89.7	84.2	100

・児童の肯定的回答は数値指標を上回った。

【次年度の方針】

- ① 地域学校園共同行事については、各行事の反省に基づいて課題の改善を図り、内容の充実を目指す。
- ② あいさつ運動については、中学校生徒会との連携を工夫し、児童生徒間の交流と相互理解を深める。
- ③ 情報発信については、各種たよりや学級懇談会等の機会を活用し、活動の様子を年間を通じて積極的に発信する。

5-(2)
主体性と独自性を生かした学校経営の推進

A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、

- ① 今泉小地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域

B

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域

<p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>の学校づくりを積極的に推進するとともに、学校運営の充実を図る。</p> <p>② 地域協議会・地域学校協働活動推進員等と連携し、<u>地域人材や地域資料を有効活用した教育活動を推進する。</u>また、<u>保護者にも更にボランティア等の協力を仰ぎ、学校と家庭との連携も強めていく。</u></p> <p>③ <u>泉が丘地域学校園との連携・協力をより一層推進し、望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童の育成に取り組む。</u></p> <p>④ 学校公開や各種通知、学校ホームページ等を活用し、情報の積極的な発信を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>R7</td> <td>90.9</td> <td>97.6</td> <td>92.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>92.7</td> <td>94.9</td> <td>93.9</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①地域連携の継続と工夫については、コミュニティセンター等と連携し、地域の教育力を活かした活動を展開する。 ②ボランティア活動の活性化については、多様な人材（地域・保護者・大学生）の活用により、家庭・地域とのつながりを強化する。 ③地域学校園の連携深化については、部会・分科会の連携を密にし、人間関係づくり・学び合いの充実を目指す。 ④ 報発信と協働については、積極的な広報で理解を促し、家庭・地域・企業との「顔の見える」協力関係を築く。</p>	R7	90.9	97.6	92.1	100	R6	92.7	94.9	93.9	100					
R7	90.9	97.6	92.1	100														
R6	92.7	94.9	93.9	100														
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の定期的な安全点検の実施に取り組む。 (定期点検 臨時点検 日常点検)</p> <p>② 行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>/</td> <td>88.4</td> <td>91.8</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>/</td> <td>89.7</td> <td>93.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者・地域住民の肯定的回答は指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりに取り組む。 ② 関係諸機関との迅速な情報共有を行い、施設等の維持管理や改善に努める。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	/	88.4	91.8	100.0	R6	/	89.7	93.0	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R7	/	88.4	91.8	100.0														
R6	/	89.7	93.0	100.0														
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末、ミライム、スズキ校務、さくら連絡網など ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 教職員が授業で効果的にICT機器を活用できるよう、ICT支援員や情報教育主任と連携した研修を通して、教職員の技能向上を図る。</p> <p>② ICT機器、各種システムを積極的に活用し、教職員同士及び保護者等との情報の共有化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R7</td> <td>/</td> <td>96.7</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>/</td> <td>95.5</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は96.7%で、数値目標の85%を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①本年度のようにICT支援員や情報教育主任と連携した研修を通して、教職員の技能向上を図る。引き続き、生成AIを活用した校務の軽減等をテーマにした研修を実施したい。 ②学年だより等で、学習で活用している様子を保護者に発信することにより情報の共有化を図りたい。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R7	/	96.7	/	/	R6	/	95.5	/	/
	児童	教職員	保護者	地域														
R7	/	96.7	/	/														
R6	/	95.5	/	/														

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
【数値指標】
 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」
 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答
 80%以上

- ① 教職員が率先垂範に努めるとともに、校内掲示や各種たより、学校ホームページ等により児童・保護者への啓発に努める。
- ② 児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。
- ③ 小中一貫学校園と連携したあいさつ運動の推進を図る。特に、登下校時の挨拶の徹底を図るようにする。
- ④ 「友達アンケート」にチェック項目を入れ、振り返りを行い、児童の自発的な挨拶を促す。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	91.8	97.7	88.6	100
R6	93.4	100	84.4	100

・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。
【次年度の方針】
 ① 各種たより等で児童・保護者・地域への啓発に努める。また、教職員自ら挨拶を行い、推奨していくことで、習慣の定着を図っていく。
 ②③児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。(小中一貫学校園と連携)登下校時の挨拶が積極的に行えるように声を掛け、自発的な挨拶を促す。
 ④ 振り返りを行うことで自分の挨拶について見つめ直す機会を作る。

B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。
【数値指標】
 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」
 ⇒児童・教職員の肯定的回答
 85%以上

- ① 家庭や地域社会との連携を充実させ、「今泉小のあたりまえ」(挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い)を指針に更なる学級指導や全体への児童指導を通して規範意識を高める。特に「あいさつ」を重点目標とする。
- ② 「友達アンケート」に「今泉小あたりまえ五か条」のチェック項目を入れ、振り返りをさせることで、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。
- ③ 生活当番による校内の巡視を通して、児童の生活の様子を把握し、全校体制で指導に当たるようにする。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	92.0	97.7	94.8	100
R6	93.2	97.4	94.5	100

・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。
【次年度の方針】
 ① 今後も学級指導や全体への児童指導を通して「今泉小のあたりまえ五か条」の定着を図るとともに規範意識を高める。特に挨拶を重点とする。
 ② 「あたりまえ五か条」を再確認し、めあてをもって生活できるようにする。アンケートの振り返りを十分に行うことで、児童の自発的な取組を支援する。
 ③ 安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。

B3 児童は、学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りをもっている。
【数値目標】
 全体アンケート「私は、学校のよいところや自慢できることを知っている。」
 ⇒児童の肯定的回答
 85%以上

- ① 共に生きる力を育てる活動の充実を図る。
 ・縦割り班活動
 (なかよし班活動 縦割り清掃)
 ・特別支援学級と通常の学級との交流
 ・体験活動の充実
- ② 自他の違いを理解し、尊重し合い支え合う望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。
- ③ 望ましい食習慣の定着を図る。
 ・栄養士による授業
 ・各たより発行による啓発と家庭との連携
 ・お弁当の日の活用
- ④ 地域の教育力を積極的に活用し連携を図る。
 ・地域の団体・施設と連携した教育活動
 ・防災訓練や下校時の見守り

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R7	82.1	100	94.9	100
R6	87.6	100	90.2	100

・教職員の肯定的回答は数値指標を上回ったが、児童の肯定的回答は数値指標を下回った。
【次年度の方針】
 ①特別支援学級と通常の学級との交流を継続・推進し、互いを認め合い、共に生きる力の育成を図る。
 ②「一人一役」等の取組を通じて個々の居場所づくりを進め、互いに支え合う温かな学級集団を醸成する。
 ③栄養教諭等による授業や各種たよりでの啓発活動を充実させ、望ましい食習慣の定着を目指す。
 ④合同防災訓練や下校時の見守りなど、地域と協働した活動を通して、地域の教育力を学校安全に有効活用する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～A9）】

- ・A1 主体的に学習に取り組む態度

教職員(100%)、保護者(90.6%)は目標を達成したが、児童(89.2%)は目標の90%にわずかに届かなかった。次年度の方針として、児童と共に学習問題をつくる「問題解決的な学習」を強化し、自分の考えを整理・発表する時間を確保することで、自己表現力の向上を図る。

- ・A6 英語コミュニケーション

児童の肯定的回答(77.1%)が目標(80%)を下回った。ALTとの交流の場を増やし、授業で使えるフレーズの研修を教職員向けに実施することで、児童が自信を持って英語を使える環境を整える。

- ・A2 思いやりの心

全ての対象で目標数値を達成したが、児童の数値は昨年度より微減。道徳科での学びを「自分事」として捉えられるような授業展開を工夫していく。

- ・A3 粘り強く取り組む態度

全ての対象で数値目標を達成している。特に教職員の肯定的回答は100%であった。「めあてカード」や「振り返り」の工夫で、達成感を高めていく。

【健康・安全・郷土愛（評価項目：A10～A20）】

- ・A4 健康・安全

数値目標を達成している。体育館工事による制限下でも、児童は新しいきまりを守り安全に気を付けて生活することができた。今後も体力テスト結果の分析に基づいた体育授業の充実と、食育・安全教育を継続していく。

- ・A7 宇都宮の良さ

全ての対象で数値目標を大きく上回った。「宇都宮学」や「体験活動」をさらに充実させ、地域への愛着と誇りを深めていく。

【目指す学校の姿】

- ・A11・A12 いじめ防止・学級経営

児童の肯定的回答が96%を超え、目標(90%)を達成している。教職員も100%といじめを許容しない姿勢を貫いている。今後も教育相談週間や「友達アンケート」を継続し、早期発見・組織的対応を徹底する。

- ・A13 学校の雰囲気

全対象で数値目標を達成している。保護者の肯定率も上昇(93.4%)した。ロング昼休みの「学級遊び」等を通じ、児童と教師の信頼関係を深め、活気ある学校づくりを推進していく。

- ・A14 わかる授業・学力向上（評価：B）

児童(97.5%)、保護者(90.6%)ともに高い評価で目標を達成した。公開授業による教員の相互研鑽と、習熟度別学習等の活用によるきめ細かな指導の継続を行う。

- ・A15・A16 チーム力と働き方改革

どちらも教職員の肯定的回答率が90%を超え、組織的な連携が定着している。ICT活用による校務デジタル化を定着させ、創出した時間を児童への指導や教材研究に充てていく。

【本校の特色・地域連携】

- ・B1 あいさつ・B2 きまりとマナー

全指標を達成。特に地域住民からの評価は100%と極めて高い結果であった。「今泉小あたりまえ5か条」のさらなる定着を図るとともに、児童会主導のあいさつ運動をさらに推進する。

7 学校関係者評価

- ・アンケート結果を数値で捉えるだけでなく、教職員が分析を重ねて具体的な課題を見出し、次年度の方針に直結させている一連の流れは、学校経営の透明性を高めており非常に有効である。
- ・きめ細かな方針を立てるためには多岐にわたる質問が必要だが、回答側の負担も考慮しなければならない。今後は、デジタルツールの活用や質問の絞り込みなど、持続可能な評価システムの工夫を期待したい。
- ・「学校が地域を頼り、地域が学校を支える」という双方向の協働を強化する。学校側の負担を考慮しつつ、地域としても無理のない範囲で、上手に連携できる仕組みづくり（役割分担の明確化など）に協力していく。
- ・児童が気兼ねなくスピーキング練習を行える環境として、生成AIの活用は有効な手段である。対話型AIを活用することで、英語への抵抗感を減らし、コミュニケーションへの意欲を高める一助としてはどうか。
- ・学校マネジメントアンケートの結果を地域と共有し、共に課題解決に取り組む姿勢を継続することで、より信頼される学校運営を目指してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

- ・本年度の教育活動や児童の様子については、学校関係者より「経営の透明性が高く、具体的な課題分析が次年度の方針に直結している」と極めて高い評価を得ることができ、ほぼ全ての項目で数値指標を達成した。今後も、児童の自己評価の微減傾向を真摯に受け止め、学校・保護者・児童・地域の四者による評価・意見を基に、教育課程のさらなる質的向上を図っていく。
- ・今後も学校と地域の双方向の協働を強化し、地域側の負担にも配慮した持続可能な連携体制を構築していく。学校での取組や児童の活躍を、デジタルツール等を用いて的確に発信することで、家庭・地域との協力関係を深め、共に課題解決に取り組む姿勢を継続していく。
- ・学習指導については、児童の主体性や自己肯定感の向上を最優先課題とし、児童と共に学習問題をつくる「問題解決的な学習」を推進する。また、英語教育等の課題に対し、生成 AI などの先端技術をスピーキング練習等に試行的に導入することで、児童が自ら学ぶ楽しさを実感し、自信を持って表現できる授業改善に取り組んでいく。
- ・児童指導については、引き続き「今泉小学校あたりまえ五か条」の定着を図るとともに、児童会主導のあいさつ運動を活性化させ、自発的な規範意識を育てていく。また、教育相談週間やアンケートを通じた実態把握を徹底し、教職員が組織的に対応するとともに、関係機関と緊密に連携して一人一人に寄り添った支援を推進していく。
- ・健康（体力・保健・食育・安全）については、体育館改築等の環境変化の中でも児童が自ら判断し、安全に行動できるよう指導を継続していく。特に、新体力テストの結果分析に基づいた体力向上や食育チャレンジシート等の取組を通じ、苦手なことへの挑戦や困難を乗り越える力を育てることで、自己肯定感を高める活動を重視していく。
- ・次年度も、「持続可能な評価システム」への改善を図りつつ、教育効果を最大限に高める行事・活動を精選する。ICT の有効活用による業務効率化で生み出した時間を児童へのきめ細かな指導に充て、より充実した学校教育を実践していく。